

Q 6. 透析中に使用する抗凝固剤（ヘパリン）について教えてください。

A. ヘパリンとは、抗凝固剤のことです。血液透析では、血液を体外に導出して体外循環を行い、再び体内に戻す操作を連続的に行います。その都度、血液はダイアライザーや血液回路と接触し、血液内の凝固機序が進行し体外循環の続行が不可能になります。しかしこのヘパリンを使用することにより、血液が固まることなくダイアライザー及び回路内をスムーズに流れる事ができます。体外循環をするにあたって必須の薬剤です。

使用方法としては動脈側回路から最初に1000～2000単位静注してあとは500～1000単位持続注入しています。ヘパリンと血液が混ざってダイアライザーを通り静脈側へ、そして体に入っていきます。これを一般的に全身ヘパリン化法といいます。

次に、出血傾向がある患者さんには低分子ヘパリンを使います。字のごとく分子の小さなヘパリンです。低分子ヘパリンは、出血を助長せずに血液凝固を阻止できる優れた薬剤です。

そして、手術の後や消化管出血など出血リスクの高い患者さんには、メシル酸ナファモスタットを使います。もともと急性膵炎の薬として開発されたものですが抗凝固作用があるため、活用されるようになりました。作用時間が非常に短く（5～8分）、出血を増強させない点では現在最も優れています。

臨床工学技士